旧敦賀港線（廃線敷）利活用計画策定業務委託
公募型プロポーザル審査結果について

- 1 委託業務の名称
旧敦賀港線（廃線敷）利活用計画策定業務委託
- 2 選定した契約候補者
日建設計・日建設計総合研究所・千里中央公園パークマネジメント共同提案体
- 3 公募期間
令和7年7月1日から令和7年8月20日まで
- 4 審査委員会による審査の概要

(1) 審査委員名簿（敬称略）

委員氏名	役職等
堤 宗和	敦賀市 副市長
川上 洋司	福井大学 名誉教授
椿 辰治	日本貨物鉄道株式会社 鉄道設備部担当部長
芝井 一朗	敦賀市 企画政策部長
織田 一宏	敦賀市 文化交流部長
戸嶋 吉昭	敦賀市 建設部長
中川 祐一	敦賀市 水道部長
高木 直茂	敦賀市 まちづくり観光部 特任部長

- (2) 審査委員会の開催日
令和7年8月28日

(3) 審査基準

評価項目	評価の視点・基準	配点
敦賀市及び事業の理解度、取組意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市の地勢、実状、業務箇所特性、上位・関連計画、事業箇所周辺の関連事業並びに本事業に対して十分な理解と取組意欲を有しているか ・事業箇所周辺の土地利用の状況を把握するための調査項目や整理方法が良く整理されているか 	10
同種・類似業務の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・同種・類似業務（特に廃線敷や線路跡地の利活用に係る）実績に基づくノウハウ及び経験を本業務に活かせる可能性が高いか 	10
業務実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・配置予定技術者は、調査業務に必要な技術や免許・資格を有し、業務実績も豊富であるなど、調査業務を遂行できる能力があると判断できるか ・業務実施スケジュールやフローの内容が具体的かつ実現可能か 	10
業務内容	<p>（市民意識の把握・住民参加型ワークショップ等の開催について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業箇所の周辺住民等や多様な主体（活用主体に成りうる団体や地域住民等）の意見集約やワークショップの進め方や考え方が具体的に示され、市民意向の把握が十分になされる内容か 	10
	<p>（先進事例調査について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進事例の調査地や調査項目などが利活用コンセプトや導入機能の検討の参考となることが期待される調査内容となっているか 	10
	<p>（利活用コンセプトの策定について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃線敷の利活用コンセプトの策定に向けた利活用の視点が示されているか 	15
	<p>（基本計画の検討について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査、市民意向把握のワークショップ、先進事例調査、利活用コンセプトを踏まえて、基本計画を検討する道筋が示されているか 	20
独自提案	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様書に定める業務内容について、業務実績やノウハウを活かした独自の提案が具体的に示されているか 	10
見積額	<ul style="list-style-type: none"> ・5点×（最低提案価格/自社提案価格） ※小数点第2位以下切り捨て	5

5 参加者

旧敦賀港線（廃線敷）利活用計画策定業務公募型プロポーザル募集要項に基づき、3者が参加しました。

6 審査結果

審査結果は以下のとおりです。

(1) 評点 (順不同)

会社名	評点	平均点
日建設計・日建設計総合研究所・千里中央公園パークマネジメント共同提案体	643.2	80.4
B	588	73.5
C	394.2	49.2

- ・審査委員1人あたり100点満点
- ・審査委員の評点の平均点が上位で、かつ最低基準(60点)を満たすものを契約候補者として決定しました。

(2) 審査講評

- ・3者それぞれ特徴が表れる内容であった。そのうち、上位2者の提案はどちらも優れていたが、契約候補者の提案は、実際に手掛けた豊富な実績に基づいた説得力のある提案であり、業務に対する意欲の高さが十分に伝わってくる内容であった。また、まちの特性と課題を踏まえ、計画理念と基本方針がよく整理されていた。
- ・一方、契約候補者が実際に手掛けた事例は、敦賀のまちの規模と経済状況が大きく異なるものが多いため、その違いを考慮し、敦賀の特性や規模を踏まえポテンシャルティを最適化できる計画づくりを進める必要がある。
- ・業務実施にあたっては、全体の計画を策定した上で、段階的に効果的なところから進めていく視点があると良い。
- ・廃線敷と隣接する住宅地の関係性を長期的に見て、この廃線敷の近くに住みたいと思えるような関係性に変えていけば、沿線施設の活用や土地利用に繋がり、コストをかけても十分な効果が期待できるものになるのではないか。
- ・契約候補者の案は、壮大な計画であるが、事業費や維持管理費が大きくなることが懸念される。敦賀市の財政規模も考慮し、実現可能性が高い計画とされたい。

7 担当部署 敦賀市まちづくり観光部まちづくり推進課

〒914-8501 福井県敦賀市中央町2丁目1番1号

TEL 0770-22-8137